

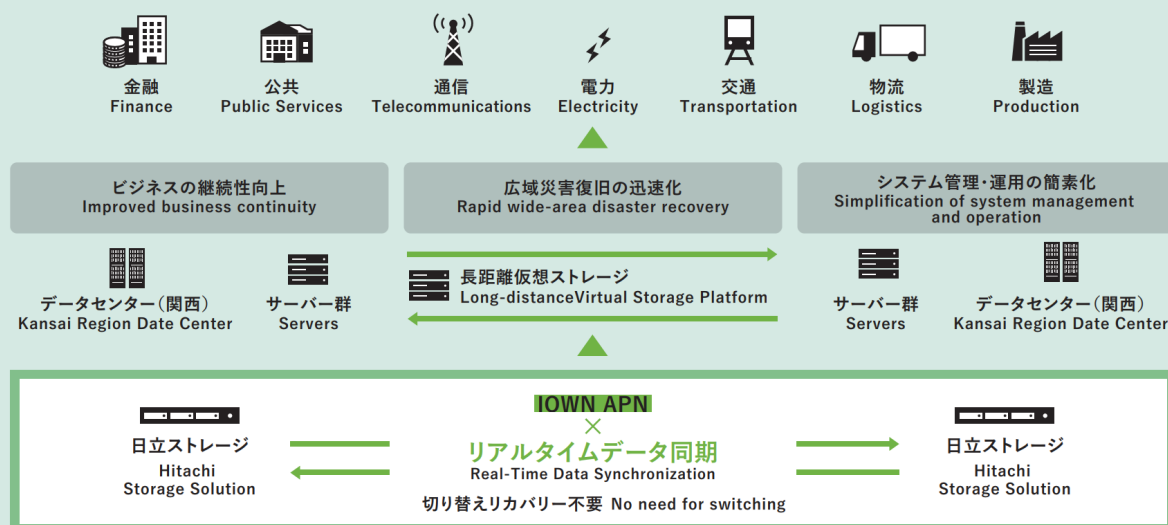
迅速な復旧とデータ損失ゼロで、ビジネス継続性を確保します 長距離間のリアルタイムデータ同期

背景 – 技術課題

ネットワーク遅延によってデータ転送性能が低下し、長距離間でのリアルタイムなレプリケーション同期が困難になります。

Borderless Data Share (BDS)

日立のストレージ仮想化 × NTTの IOWN APN Hitachi Storage Virtualization Technology and IOWN APN



600km(東京～大阪相当)を超える長距離間のリアルタイムデータ同期の実証に成功しています。
We have successfully demonstrated real-time data synchronization over long distances exceeding 600 km (equivalent to Tokyo to Osaka).

研究目標 – 成果

金融機関や社会インフラ事業者など、ミッションクリティカルなシステムを運営する企業向けの分散型データセンタ実現に向けた強靱なITインフラの構築に貢献します。

技術ポイント

01 要素技術

オールフォトニクス・ネットワーク (APN)、ストレージベンダのレプリケーション機能

02 市中技術差異点

世界初、IOWN APNとストレージ仮想化技術を用いて、600kmを超える長距離間のリアルタイムデータ同期の共同実証に成功 (Borderless Data Shareとしてリリース)

利用シーン 金融／製造業／情報技術

R&Dフェーズ ビジネス展開

【出展企業】
NTTドコモビジネス株式会社 ビジネスソリューション本部

【問い合わせ先】
第五ビジネスソリューション部 第一グループ

【共同出展社/社外連携先】
株式会社日立製作所、日立ヴァンタラ株式会社

【関連Link】
<https://www.ntt.com/about-us/press-releases/news/article/2024/1205.html>